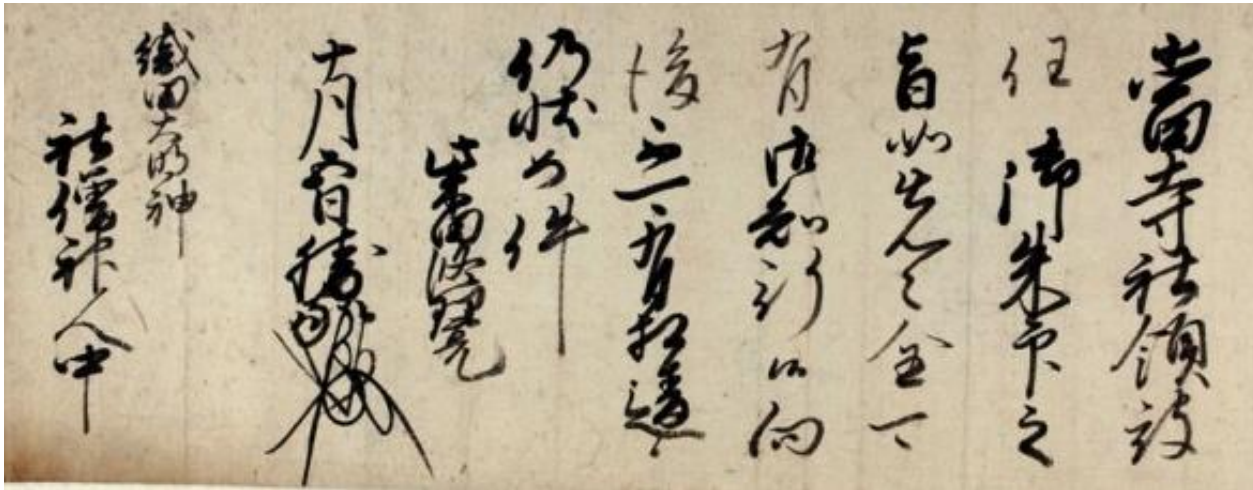


柴田勝家安堵状



1575年(天正3)「(柴田勝家安堵状)」

山内秋郎家文書(当館蔵) [デジタルアーカイブへ](#)



織田大明神 社僧人中	十月五日 勝家 (花押)	柴田修理亮	十月五日 勝家 (花押)	仍状如件、 後不可有相違候、 有御知行候、向	旨如先々全可	任御朱印之	当寺社領被	翻刻文
								現代語訳
								劍神社の所有する土地につ
								いては、朱印状の趣旨により、
								以前の様に全て劍神社が知行
								すればよい。今後もそのこと
								に間違いはない。以上。

解説

柴田勝家は織田信長の重臣です。かつては信長の弟の信行のぶゆきに仕えていましたが、のちに信行を見限って信長につきます。

猛将ほまの誉れ高く、1570年(元亀元)に近江長光寺城(近江八幡市)を六角氏に攻められたとき、飲料水の瓶を割って城には戻らぬ覚悟で出撃し、敵を破ったことから「瓶割り柴田」の異名をとったと伝えられています。翌年の伊勢長島一向一揆攻めで負傷しましたが、朝倉・浅井攻略、長篠の戦いなど主要な合戦に出陣し、数々の武功を立てています。

1582年(天正10)、本能寺の変で信長が亡くなると、その後継者をめぐって羽柴秀吉(後の豊臣秀吉)と対立します。1583年(天正11)の賤ヶ岳しずがたけの戦いで敗北した勝家は、越前の北庄城に籠城しますが、秀吉軍に城を包囲されてしまいます。覚悟を決めた勝家は、夫人お市の方とともに自害。その生涯に幕を閉じました。

福井とのかかわり

1575年(天正3)、越前の一向一揆を滅ぼした信長は、加賀や越後に睨みをきかすために、勝家に越前を治めさせます。1581年(天正9)に北庄を訪れた宣教師ルイス・フロイスは、著書『日本史』の中で「城やほかの屋敷の屋根がすべて立派な石で葺かれており、その色に一層城の美観を増している」と、北庄城を大変評価しています。

勝家は城下町の整備以外にも、北国街道の整備、舟橋や九十九橋の架橋、検地、安堵状の発行など、精力的に領国経営に取り組んでいたようです。

資料の注目ポイント

安堵状とは、武家社会において将軍・大名が家臣や寺社等に対し、旧来の所領を保証した文書のことです。ここでは勝家が劍神社に対して、所有する土地の支配や保持を保証しています。資料では、日付のあとに「勝家」の署名と花押かおう(署名を簡略な形に変化させたサインのようなもの)がみられます。なお資料中の「御朱印」とは、織田信長が発給した朱印状と考えられます。

ちなみに本資料とは別に、1576(天正4)年に劍神社の神宮寺である織田寺が勝家に提出した「織田寺社申条々」という資料があります。その中に「当寺は税を免除されているため、刀さらへ(武器の徴収)も免除してほしい」と願い出ている記述があり、このことから勝家が越前において秀吉よりも早く刀狩りを行っていたことがわかります。同時に、織田家の氏神である劍神社が柴田勝家(織田政権)にとって特別な存在であったこともうかがい知ることができます。

関連資料、展示等

名称	概要	備考
「(柴田勝家安堵状)」	山内秋郎家文書（当館蔵） 資料番号 X0142-00004	デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=011-557661-1-p1
福井県文書館月替展示 「ゲームとつながる福井の歴史 一刀剣と御城 － シーズン 2」	「(柴田勝家安堵状)」を展示	当館 WEB で公開中。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/fukui/08/m-exhbt/20191220AM/20191220AM.html

参考文献等

- ・『福井県史 資料編 5 中・近世三』（1985 年、福井県）
- ・『福井県史 通史編 2 中世』（1994 年、福井県）
- ・『ふるさと福井の先人 100 人』（2016 年、福井県教育委員会）
- ・松浦義則『戦国期越前の領国支配』（2017 年、戎光祥出版）